

日曜発明学校 (札幌市)

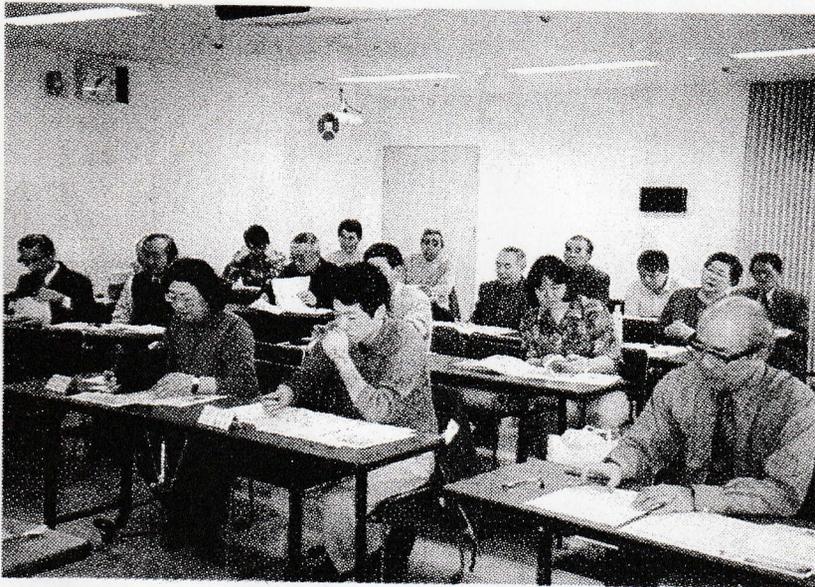


▶ 305

毎月第三日曜の午後一時から札幌・中央区民センターで開かれている学校を訪ねると、合唱が聞こえてきた。

まず学校を主催している北海道発明研究会の事務局長、山本修一さん(金沢)にレクチャーを受けた。会は有志により一九七八年に発足。初心者向けの日曜学校が三百六十回を超えた。会員は五、六十代を中心に約六十人。学校の生徒を会員と考えていいそうだ。先の歌は会の幹事、斉藤昭子さん作詞・作曲の「この発明(はな)を世界に」で、全国

初心者向け 360回超す



アイデア勝負。『発明心』をかきたてる生徒たち

の発明グループで愛唱されているそうだ。授業は会長(校長)による発明・特許全般についての講義、市販のアイデア

元小学校の先生で特許管理士。アメリカの発明大会に重さが両肩に均等にかかる「スキー担ぎ器」を出して銅メダルを得た。山本事務局長は自ら発明工学会を興している発明コンサルタント。副会長の島田義夫さん(金沢)も特許管理士で意匠が得意分野。学校では試作全般を指導している。教室では女性を含め約三十人が中村校長の話に耳を傾けている。エジソンを夢見た子供のころの純な心そのままの表情を見て「発明工夫をやる人に悪人はいない」と確信した。学校には毎回、発明雑誌やホームページを見た新入生が入学している。入会金、当日授業料各千円。(お)

ア商品テスト、発明相談、発明発表の順に進められる。会の役員はいずれも専門家で、会長の中村出さん(金)は

「はつらつグループ」は二十三日で終わります。五月七日からは、思いの手書きの絵に短いメッセージを添えた絵手紙、はがき絵作品を紹介する「絵メール」を連載します。応募者ははがきの表に郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記して、左記のあて先へ。匿名は不可。採用分には謝礼を差し上げます。

◇人生の転機、挫折をどう乗り越えたか、インタビューで聞いてみたい人、ふさわしい人などをお知らせください。  
◇「陽だまり」は読者の交流欄。原稿用紙に500字以内(厳守)で。郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記して。やむを得ない場合は紙上匿名可。採用分には謝礼を差し上げます。  
いずれも〒060・8711 (住所不要) 北海道新聞編集局「生きるページ」担当編集委員 (☎011・210・5612) へ。

お寄せください